

組 番号前

【2年生で学習する古文1】教P 116 便P 64

「枕草子」

時代

作者

身のまわりのできごとを書いた文章

「枕草子」の内容

① 「ものづくし」

自然や人に関することを特色ごとに集めた章段。

例：「うつくしきもの」「ありがたきもの」「虫は」

② 「感想」

自然や身のまわりのこととの印象などを自由に書いた章段。

例：「春はあけぼの」「月のいと明きを」

③ 「回想」

宮廷生活での見聞や体験を書いた章段。中宮定子との思い出。

例：「雪のいと高う降りたるを」

キーワード

意味：すてき。おもむき趣がある。風情がある。

意味：深い感動・しみじみとした趣。

組 番 名前

【2年生で学習する古文2】

[ ]

[ ]

時代

作者

[ ]

自然や社会に関する考え方が書かれている。

教P122 便覧P72

〈冒頭文〉

つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

[ ]

鎌倉時代  
作者 鴨長明

〈冒頭文〉

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある人と栖とまたかくのごとし。



[ ]

すべてのものは変化し、永久不変ではないという考え方。

鎌倉時代に成立した

[ ]

物語

[ ]

平家一門の栄華と没落が描かれている。

〈冒頭文〉

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。